

# 今週のズバリ こう見る

## Analysis

市場が注目しているのがOPEC(石油輸出機構)総会の動向だ。総会を前にOPECの諮問機関に当たる閣僚監視委員会が、「生産目標を日量100万~150万バレル引き上げる」ことを勧告。事前予想では引き上げが既成事実になっていたが、実際にはイランなどの

の週間情報統計を見ても、ガソリン需要が前年度並に回復している。原油価格が100ドルを超えても、米国の需要は後退していないことを示し、消費者が高値に抵抗のない証拠でもある。景気後退に伴う需要減少をハヤす向きもあるが、今後、需要が落ち込むとは思えない。

### 7月に110\$乗せの公算 高値でも消費が落ち込まず

#### OIL 原油



(株)フジミ  
情報サービス室  
チーフアナリスト  
齋藤 和彦氏

反対を受け、日量2、485万バレルに据え置かれた。これで、OPECの増産は回避され、当面、供給面での弱材料は解消された。供給サイドの弱材料に乏しい状況下で、強材料は目白押しだ。米国は夏に向けて、ドライブシーズンが本格していき、EIA(米エネルギー情報局)

再び、米国内に目を向けると、国内のガソリン在庫が5週連続で減少している。現在、製油所の定期修理等もあり、原油の処理量も少ない。前年に比べて、原油在庫は20%近くも落ち込んでおり、需給がひっ迫しやすいため、ニューヨーク原油期近は110ドルを目標に買われよう。

### 豪州とNZドルが狙い目 高金利の通貨が面白い!!

#### FOREX 為替



FSIG代表  
野村 雅道氏

円は強くない。主要通貨を比較してみれば判る。現在の評価は通貨ランクで7位にランクしている。円より評価が下なのは米ドルと南アフリカランドぐらい。ユーロと比較すれば

円は決して高くないことが判る。日本市場で米ドルとの比較で見ると、一般的なのは貿易を中心として円・ドル相場を指標としているからだ。確かに輸出業者はドル・円建て貿易が中

いま利益が出ているのはニュージーランドドルや豪州ドルを持つ人である。豪州ドルは円に対して30%前後上昇している。大きな利益を得ているはずだ。為替取引の場合、低金利通貨を避け、高い金利の通貨

を狙うのがポイント。そこで、リスクはあるが、ギリシャやアイスランド通貨を買ってみる。ギリシャの金利は13%で、ポルトガルやアイスランドも10%を超えている。ただし、これらはソブリンリスクが高いとの指摘がある通貨。不安なら、今後も安定的な上昇を見込める豪州ドルがお勧めだ。円・ドル相場の行方だが、一定のレンジ内での動きが続く保合相場となる。

12月から来年2月にかけて、東京金期先は4,600円±50円を目標に上昇すると予想する。これはニューヨーク金期近が1,600ドルまで上昇し、為替相場が1ドル=90円の円安になった場合を想定したものだ。

金価格の動きに、リズムが存在する。4ヵ月から6ヵ月上昇し、高値をつけたあとは1ヵ月前後下落するというリズムがリーマ

ン・ショック以降、顕著で、キレイなリズムを描いている。今年のトレンドの始まり

3,479円で、そこから買われ、現在は高値圏にある。リズム論からいうと、8月前後

### 8月の安値は買い仕込み場 12~2月にかけて高値示現

#### GOLD 金



(株)東京支店  
投資相談部  
千葉 純平氏

は、ニューヨーク金期近が1月28日の1,307.7ドル、東京金期先は1月31日の

にニューヨーク金期近は1,400ドル±20ドル、東京金期先は3,650円±20円近辺ま

で売られよう。6月末にQE2(追加的量的金融緩和政策)が終了すると、マネーの流れが停滞する可能性があるし、為替は1ドル=76~78円の円高・ドル安になる可能性もある。しかし、その半年後はリスク資産としての金を買われ、為替はドル高基調に変化しているものと見られる。東京金はニューヨーク高と円安が増える。